

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果

大 学 名	明治大学
整理番号	B18
構 想 名	世界へ！MEIJI8000 ―学生の主体的学びを育み、未来開拓力に優れた人材を育成―

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント) 本構想は、世界規模課題を解決できる人材の育成を目標に、「主体的に学び、考え、行動し、多様な価値観の中で、新たな未来を切り開くグローバル人材を世界に送り出す」ことを目指して、「語学・コミュニケーション力」「異文化理解力」「論理的思考力」「学際力」「リーダーシップ力」によって構成される「未来開拓力」を養成しようとする意欲的な取組である。また、「日本の教育モデル大学」「国際通用性の高い日本の拠点大学」を目指した「総合的教育改革」構想に示された大学のビジョンも説得力がある。 改革の内容としても、国際的な「学びの場」環境を整備するための、柔軟な学事暦の導入、「海外トップユニバーシティ留学プログラム」や多種多様な留学プログラムの提供、明治大学グローバル・ヴィレッジのオープン、イングリッシュ・カフェ、海外との遠隔授業が可能なメディア環境の整備、留学経験者により結成された学生留学アドバイザーの取組、外国人留学生を対象にしたキャリア支援、大学の世界展開力強化事業への申請・採択など、様々な教育改革の取組がなされている。結果、留学生の受け入れや、外国語による授業・コースの設置においても、成果を上げている。研究面でも、国際的な研究力強化を目指し、研究業績・発信管理ツール、研究振興賞、学際高等研究院などの施策を実施している点が評価できる。さらに、マネジメントにおいても、令和元年度に「明治大学グランドデザイン2030」を発表し、SGU事業の理念を長期的な展望で実施する体制を築くことができたことや、外部評価委員会を開催し、評価や助言を施策に反映している点は、財政支援終了後を見据えた自走化という観点からも評価できる。ただし、自走化の自己財源についてコミットメントはあるが、具体的な計画が示されておらず、今後の更なる検討を要する。 今後の課題としては、ナンバリングとシラバスの英語化は国際通用性を進めるうえで、車の両輪で重要であるが、ナンバリングは目標を達成できているものの、シラバスの英語化の達成度が14.7%と大変低く問題である。教員の自発的なシラバスの英語化や外部委託の方法だけでは、目標達成は困難と思われる。また、アクティブ・タームについては、その創出に向けたターム完結型の7週授業を国際日本学部で試験的に導入するにとどまり、全学展開できていない。入試制度の整備も十分ではない。 以上のように、一定の課題は見受けられるが、平成29年度中間評価で指摘された事項への対応が確実になされており、全体に、計画が順調に進展しているため、上記のような総括評価となった。SGU最終年度に向けて、「総合的教育改革」を着実に実施できるよう、継続的な取組を期待したい。	